

# メキシコ漫画における歴史としてのドラマ

—1950年代から1970年代におけるメキシコの漫画と公教育省の文化制度—

国際日本文化研究センター Alvaro David Hernandez Hernandez

## 1 目的

この報告では 50 年代から 70 年代までに出版されたメキシコ漫画(イストリエタ)における歴史や社会的な出来事の描き方、そしてその社会的・政治的なコンテキストを分析する。私の目的は、メキシコの市民社会において、漫画が担うようになった「共通言語」としての役割を、「歴史」と「ドラマ」の連続性から検討するのである。この調査は、「漫画」というメディアの歴史的な経験から、市民社会と社会運動における「文化」の役割の議論への貢献を試みる研究方針の一環である。

## 2 方法

この調査では、50 年代から 70 年代の間に、「歴史」を題材にして5つの出版社が刊行した 62 冊のコミックブックをサンプルにしてテキスト分析を行った。その中で、各出版社とその漫画の特徴を対比して、どのように「歴史」を「ドラマ」にするのかを検討した。これらの漫画の内容は主に、歴史的な人物の伝記であり、従って、如何にその脚色化が行われるのかを分析した。そして、漫画の描き方(コマ割りとキャラクターの作り方)と当時の他のメディアの影響や関連(例:映画と版画)も検討した。社会的・政治的なコンテキストの分析にはメキシコの文化史、美術史や教育制度、文化制度についての先行研究を検討して行った。メキシコの漫画研究の研究動向の整理を踏まえ、日本の貸本劇画漫画研究の応用を組み込んだアプローチを試みた。

## 3 結果

50 年代～70 年代のメキシコ漫画と公教育の文化制度との関わりを検討することで、当時メキシコの文化マーケットにおける二つの歴史観の合流を確認できた。それは、一方メキシコ国家が独占した教育制度によって構築された歴史観である。これは特に国民アイデンティティの強調を目指した歴史観でもある。そしてもう一方は複数の歴史観の交渉から形成された商業イストリエタの歴史観、即ち「ドラマ」である。この「ドラマ」への傾向は出版社によって異なり、差によって、形式の多様性だけではなく、出版社業界内の権力関係の状況も伺えることができた。このように形成された、漫画内の歴史観は、当時メキシコの商業メディア(映画やラジオ)と芸術運動(劇画運動や大衆グラフィック工房の活動)と連続性も保っている。さらに、社会的・政治的なコンテキストにおけるメキシコ漫画出版業界の立ち位置を検討することによって、漫画出版社の強い影響力とメキシコ国家コーポラティズムとの相互関係を示唆できる。

## 4 結論

50 年代から 70 年代のメキシコ公教育において、国家の教育方針とその方針と対立する別の教育方針(特に宗教団体による教育方針)との衝突があった。同時に、文化マーケットにおいては、特に歴史を扱った漫画において、上記の二つの異なる教育方針の合流が見える。以上から、漫画による歴史の「ドラマ」化が、異なる教育方針の「交差」と「交渉」の設立に貢献したと言える。即ち、メキシコ歴史漫画の「ドラマ」は異なる歴史観の交渉の生産物でもあると言える。このように、50 年代から 70 年代のメキシコの文化マーケットで生まれた「ドラマ」には、他の領域で設立し難い「交渉」が行われ、メキシコの当時の市民社会に重視すべきな役ありを果たしたと言えるでしょう。